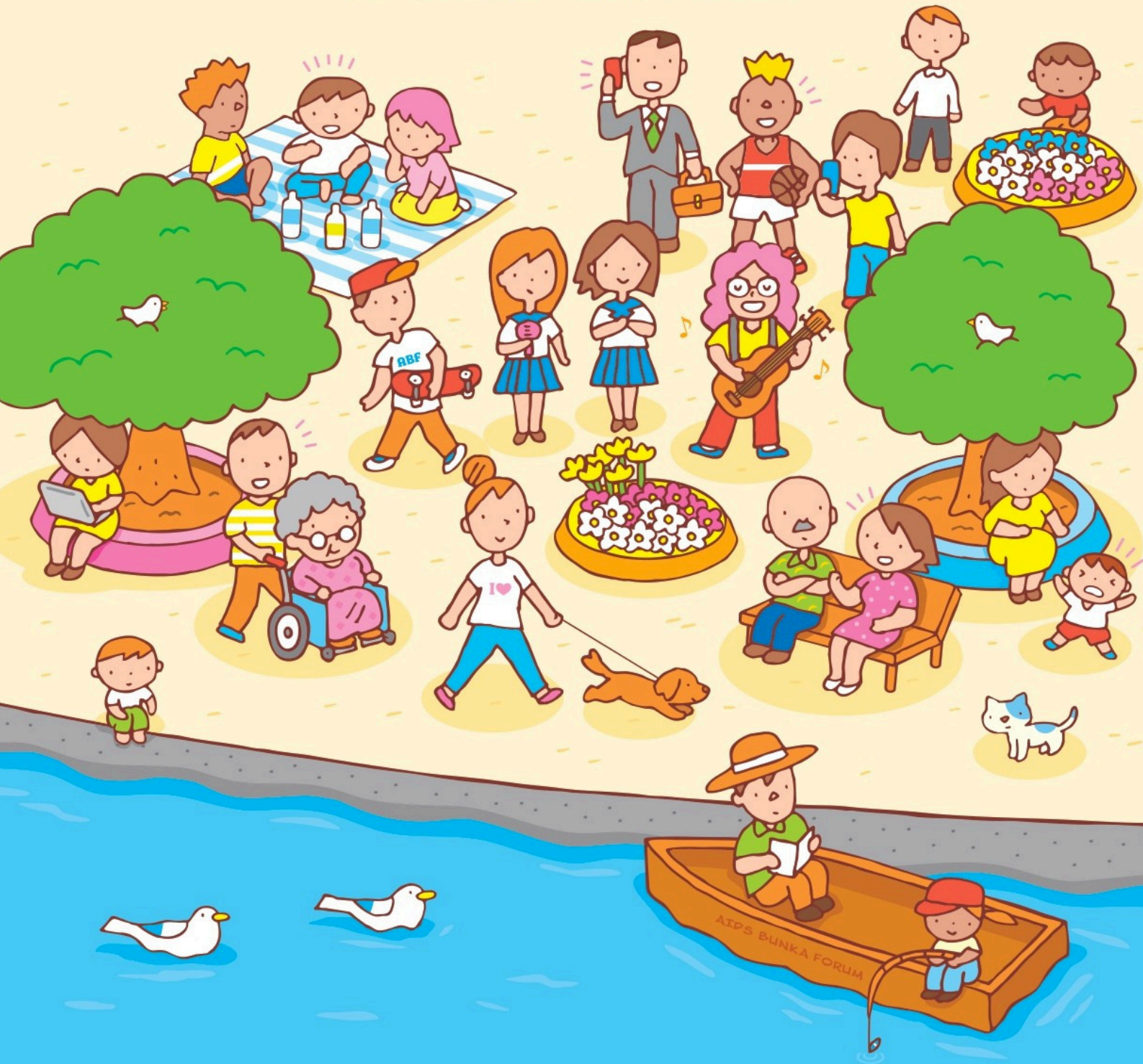


みんなの本音が聴ける 語れる

△IDS文化フォーラム in YOKOHAMA△

第32回 報告書



目次

01	全体風景	…P 3
02	プログラム一覧	…P 4
03	開会式・組織委員長あいさつ	…P 6
04	オープニング「変わる社会、変わらない社会」	…P 7
05	プログラム	…P 8
06	展示ブース	…P22
07	閉会式～広がるAIDS文化フォーラム～	…P29
08	フォーラム全体集計	…P30
09	AIDS文化フォーラムin横浜 32年の歩み	…P31
10	第32回AIDS文化フォーラムin横浜を支えた人たち	…P33
11	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会規約	…P34
12	協賛・寄付	…P35
13	参加団体等名称・索引	…P35

◎AIDS文化フォーラムin横浜とは？

1994年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な行動を行うNGO/NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。多くの方々の温かい思い・ご支援により「手弁当」の市民フォーラムも今年で32回を迎えました。

第27回、第28回は新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催となりましたが、第29回からはかながわ県民センターに戻り、今年は従来通り教室でのリアル開催と、開会式・オープニングはハイブリッド開催となりました。

◎「文化」の2文字

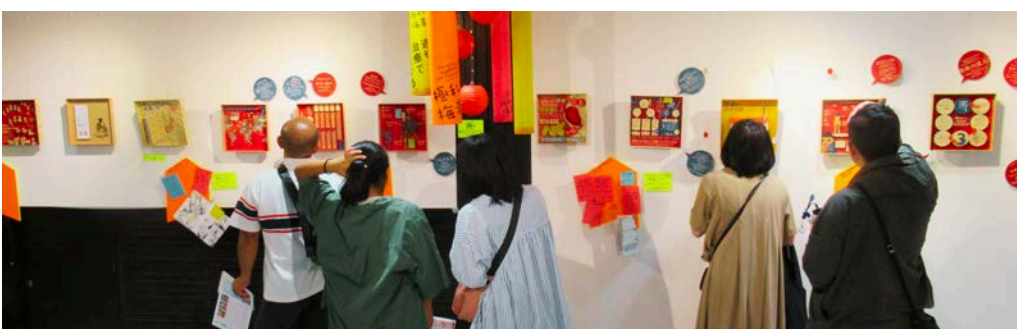
なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるだけでなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、依存症、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

◎報告書作成にあたって

フォーラムは3日間だけではなく、事前準備を含め、参加者の、支えてくださっている方々の、そして運営委員の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会い、つながりをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、ぜひご活用ください。



01 全体風景



02 プログラム一覧


AIDS文化フォーラム in 横浜

2025
プログラム

*入場無料
みんなの、本音が 聴ける 語れる
2025年7月27日現在

YouTube 配信はオープニングのみ

ミニ講座 (302)

1日、2日 14:45~15:15
3日 11:45~12:15

プログラムの詳細は
HP から確認できます→



プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。
(都合によりプログラムが変更になることがあります。最新情報はHPでご確認ください。)

会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30		
8月1日・金	開会式 オープニングセッション 変わる社会、変わらない社会	性犯罪は予防できない!?! 斉藤章佳 池畑博美 高橋幸子 宮崎豊久 岩室紳也	薬物依存症の真実 松本俊彦 塚本堅一 風間暁 ピース 岩室紳也		
	301	はじめて学ぶ『多様な性』 横浜YMCA国際・地域事業	~14:30 漫画「あそこではたらくムスブさん」 —作者が語る 001 ミリの舞台裏— ゲスト：モリタイシ		
		302	「発達に配慮の必要な子への性教育を考える」'25 【助産師】有馬祐子 & 相賀佳代子 with【きらっといっぽの会 阿部友理】	ミニ講座 『性的マイノリティの老後安心ガイドブック』活用ワークショップ NPO 法人パープル・ハンズ	
			304	神様がくれた HIV 北山翔子	思春期の子どものために ここに響く話とは 思春期保健指導者研修会 北山翔子 宮崎豊久
				305	“なんとなく”を卒業しよう ～伝わる性教育のつくりかた 性教育コミュニティ kokorocolor 思春期保健相談士 星野貴奈
8月2日・土	2階ホール 敢えて問う！ 男子への性教育で何を变えたい!?! 内田洋介 福元和彦 福田真央 岩室紳也	宗教と AIDS Part20 なぜAIDS文化フォーラムで宗教か!?! 平良愛香 古川潤哉 ナナさん 宮崎豊久 岩室紳也	映画 ノルマル 17 歳 —わたしたちは ADHD— https://normal17.com/ 上映後、北宗羽介監督のトークショー		
	302	お坊さんが行う性教育授業 ver. 13 古川潤哉	~11:30 多文化・多言語シャワー NPO法人 かながわ外国人 すまいサポートセンター	ミニ講座 国際学会で教えてもらった「性を語る場づくり」 性の健康イニシアチブ	
	303		~14:30 性暴力サバイバービジュアルボイス 「写真で思いを表現する」 STAND Still	お口の健康 神奈川県歯科医師会	
	304	HIV/AIDS まるわかり 基礎講座 白野倫徳 (大阪市立総合医療センター 感染症内科部長) 山田雅子	プログラムの日程・時間・部屋等は 変更する場合があります 必ず最新版をご確認ください。		

【HIV 陽性者登壇支援寄付金】 ヴィーブヘルスケア株式会社 (対象プログラムは **〻〻〻** しるして表記)



会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:15~16:00
2階ホール	映画『カミングアウトジャーニー』 ダブルシネマ・セッション ーカミングアウトとその後の物語ー 福正大輔 ぼんつく スペシャルゲスト	夜回り先生と考える なぜ、若者の問題が解決しないのか？ 水谷修 宮崎豊久 岩室紳也	2階ホール 全体会・閉会式 次のつながりへ、AIDS文化フォーラム AIDS文化フォーラムを支えてくれた人たち AIDS文化フォーラム in 横浜 AIDS文化フォーラム in NAGOYA AIDS文化フォーラム in 京都 AIDS文化フォーラム in 陸前高田 AIDS文化フォーラム in 佐賀 
301	元ディズニーキャストと考える 自己肯定感 宮崎豊久	~11:30 若者の失われた自己肯定感と その高め方 一般社団法人 日本心理療法協会 代表理事 椎名雄一	~14:30
302	〈主催者の都合で中止〉 当事者と支援者が戸惑っていること 薬物依存症の支援について考える会	ミニ講座 なぜ私たちはここにいるのか NA 南関東エリア	
303	男性の生きづらさ 特定非営利活動法人SHIP	運営委員と話そう！ 本音のネットワーキングタイム 鳥居咲希 山田雅子	
304	【拡大版！】性的同意を文化に 早稲田大学性的同意 ハンドブックチーム		



【展示場】かながわ県民センター1階



【展示団体一覧】

- ◇アジアの女性と子どもネットワーク
- ◇カトリック中央協議会 HIV/AIDS 部門
- ◇神奈川県ユニセフ協会
- ◇「極私的梅毒展 Vol. 8」コケ丸 (再)
- ◇ジェクス株式会社
- ◇厚労科研費 HIV 母子感染予防班
- ◇性の健康イニシアチブ
- ◇ナルコティクスアノニマス南関東エリア
- ◇日本 HIV 情報センター (JHIC)
- ◇日本ハビタット協会
- ◇横浜 AIDS 市民活動センター
- ◇NADA JAPAN
- ◇STAND Still
- ◇TENGA ヘルスケア
- ◇運営委員会主催ワークショップ

8月1日 (金) 12時~17時30分

8月2日 (土) 10時~17時30分

8月3日 (日) 10時~15時

【助成金】公益財団法人エイズ予防財団 (令和7年度エイズ予防財団助成事業)

【特別協賛】一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

【寄付】ジェクス株式会社、ヴィーブヘルスケア株式会社



03 開会式・組織委員長あいさつ

AIDS文化フォーラムin横浜組織委員長あいさつ
公益財団法人横浜YMCA 総主事 佐竹博

AIDS文化フォーラムin横浜、32回目もかながわ県民センターで開催となりましたこと、冒頭に感謝申し上げます。今年度は、テーマを設けず、フォーラムとして目指してきた「本音で温かくかかわりあう場所づくり」を第一にして、「みんなの本音が聴ける 語れるAIDS文化フォーラム」としています。

選挙もありましたが、情報の伝わり方は今の時代、驚く方向へ向かうことがあります。ネットやメールの世界では、真偽を確かめずにある発信がものすごい影響力をもって人々に伝播していく、ある偏った発信が多くの人に影響する・あるいは惑わす。私も時折苦労しますが、本意が別の方向で伝わっていく、別のところで話があらぬ方向へ転がっていく、時には人間性まで誤解、あるいは否定されるなど、反論すればさらに燃え上がってしまう恐怖。誰もが弱者になりうるこの時代、人から誤解されないように、炎上しないように、正しいことが言えない時代になりつつあります。心を許して話せる環境は決して多くはありません、だからこそ、対面・非対面に限らず本音で、そして暖かくかかわりあう場所づくりが、大事だと今回のフォーラムは訴えているのだと思います。

今年のフォーラムの開催に向けて多くの方がたのご協力と参画があったことに感謝申し上げます。ことに、協賛、助成、ご寄付をお寄せいただきました、企業、団体、個人の皆様に心より感謝申し上げます。そして、ご出演、ご出講いただく皆さま、ご準備ありがとうございます。

今回も運営委員の皆さまが、多様な視点から準備してきたプログラムが多彩に用意されています。フォーラムに集う多くの団体、個人、企業の方がたが手弁当で作り上げてきました。フォーラムの趣旨に賛同し、関わってくださる皆様の高い志に敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。特に、この企画の中心となった、岩室先生はじめ、運営委員の皆さま、運営に携わるスタッフ、ボランティアすべての皆さまありがとうございます。

参加される皆さまもぜひ、「参加者」から、ともにこのAIDS文化フォーラムin横浜をつくっていく「文化の発信者」「文化の継承者」になっていただければ嬉しく思います。



ボランティアあいさつ

今年またこの会場に来られたこと、嬉しく思います。昨年はタブーと切り捨てられてしまう事を拾い上げる大切さを会場の皆様や講師の方から学ばせて頂きました。そしてその学びは一方的に押し付けられるものではなく優しさを持って寄り添い一緒に考えてくれるようなものでした。今日は知恵や知識を皆様と共に学び、考え、その一助となれるよう励んでまいります。

どうかこの場が誰もが安心して声を上げられる優しい場所でありますように。小さな思いやりが良い転機となりますように。



04 オープニング 「変わる社会、変わらない社会」

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：後藤正善（薬害エイズ当事者：一般社団法人アプローズ就労支援部門統括）

Kazuya（ただただ平和を願うHIV陽性者）・北山翔子（『神様がくれたHIV』著者）

山口修平（一宮学園副施設長）・宮崎豊久（インターネットポリシースペシャリスト）

岩室紳也（HIV/AIDS診療医・公衆衛生医）

内容：HIV/AIDSをめぐる社会の変化と停滞が語られました。多様な立場の登壇者が、生きづらさや偏見、支援のあり方について率直に語り合い、医療だけでなく文化や人権の視点からも課題を捉え直す重要性を共有しました。今回は多様な背景をもつ3名のHIV陽性者が登壇し、それぞれの立場で社会から向けられた差別や偏見を持った言葉・態度について吐露しつつも、周囲で変わらず接してくれた人たちや新たに出会った繋がりについても語ってくれました。またHIV/AIDSのみならず、障がいを持っていることや虐待を受けてきた子どもたちへの偏見についても語られました。特に山口さんからは虐待を受けた子どもたちの、寄り添おうとする大人に対するFighting/Freezingなどの言動は生き延びるための反応であり、それらを表層的に捉えるのではなく、本質を理解し学ぼうとすることが重要であることを教えてもらいました。

感想：*HIV陽性の方に対して、正直自分も壁があると思います。直接の知り合いもないので、何も思うことなく今まで過ごしてきました。今日のプログラムを聞いて、誰だって感染する可能性もあるし、感染してもコントロールできることも知り、自分の認識が確実に変わりました。社会全体がもっと優しいといいな…（50代）

*薬害エイズ、同性愛、異性愛、それぞれのHIV陽性の方々の歴史を想像しながら聞かせていただきました。同じ人間なのに、陽性というだけで思考停止してしまう日本の社会に、自分も簡単に排除されてしまうのではないかとこの恐怖を感じました。公立学校の養護教諭として、児童福祉施設にお世話になっている子どもたちを思い出しながら、山口さんのお話を聞かせていただきました。私の考える支援とは、その人を孤独にしないこと、です。学校や、保健室で出来ることは限られていて、はがゆい思いをすることも多いですが、子どもたちや、家庭がつながっていく先が、山口さんのような方がいる場所だと、とても心強いなと思いました。（40代）

*毎年仲間と参加するのを楽しみにしています。とても貴重な機会をありがとうございました。登壇された方々の生の声を知ることが、多様性・違いを受け入れる社会を作る一助になると思っています。登壇された方々に感謝をし、学びを何らかの形で自分の周りに還元していきたいと思いました。（40代）

連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



05 プログラム

性犯罪は予防できない!?!

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：齊藤章佳（西川口榎本クリニック）・池畑博美（虹色のたね）・高橋幸子（産婦人科医）
宮崎豊久（運営委員）・岩室紳也（運営委員）

内容：性犯罪加害者臨床に、暴力防止のためのプログラムに、インターネット問題に、学校現場での性教育に携わってきたスペシャリストたちが「性犯罪は予防できるのか、できないのか」を熱く議論をしました。初犯は防げないが再犯は減らすことができる。いやいや性教育を学ぶことで防げる初犯もある。そもそも犯罪に加担する人たちの根底にあるつながり不足の解消が急務だが、その意識が社会にない。性犯罪を予防するには何か一つのことに取り組むのではなく、一人ひとりが、できることから取り組むしかないことを確認した会でした。

感想：＊性被害は予防できない？以外にも、薬物依存の真実にも参加した。その時の先端の話を知り、立場が違う人同士の意見の食い違いが起きたり、とても参考になり面白かった。人に関わること、特に支援のあり方について、一つの答えに至ることは難しいが、人を諦めないことが大事なんだということを確認した会でした。（50代）

＊学校勤務ですが、校内で生徒の盗撮事案も起きてしまうこともありました。加害、被害が同じ場所にいることで、加害側にはかなり厳しい対応をせざるを得ないこともあり、正直とても苦しいです。いつまで経っても心の折り合いはつけられません。最近の教員の盗撮事案には、怒りしかありません。（50代）

連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



はじめて学ぶ「多様な性」～誰もが生きやすい社会を作るためには～

主催：横浜YMCA 国際・地域事業

世界120の国と地域に広がるYMCAは、差別や貧困のない平和な世界を築くことを目指して活動しています。

内容：教育系パラレルワーカーの進藤夏葉さんを講師にお招きし、多様な性についてのお話を伺いました。「セクシュアリティ（性のあり方）とは」というお話では、構成する4つの性（自認する性・からだの性・好きになる性・表現する性）について学び、誰もがセクシュアリティにおいてグラデーションを有していることと、それは誰もが持つアイデンティティー（自分らしさ）のひとつであるということを知りました。SOGIという考え方、さらに差別や偏見まで話を広げて、参加者同士が共に意見を述べあい、お互いの意見に耳を傾ける機会を持ちました。LGBTQ+や自分のセクシュアリティについて悩む人、偏見を持つ人がいますが、ひとりひとり違う、それぞれのセクシュアリティがあって当たり前という言葉が印象に残っています。セクシュアリティだけでなく障がいやマイノリティー、様々な人が生きやすい社会になるために自分たちにできることは何かを考える時間になりました。

感想：＊多様性とその基礎的知識、考え方を学ぶことができ感謝します。（70代）

＊自分の知らない世界はまだあると感じた。（40代）

＊LGBTQ+という言葉はよく聞かすが、詳しく解説していただき改めて理解を深めることができ、もっと知ってみたいと思った。（30代）

連絡先：横浜YMCA 国際・地域事業

〒231-8458 神奈川県横浜市中区常盤町1-7

TEL:045-662-3721 Fax:045-651-0169

Email:kokusai@yokohamaymca.org URL:https://www.yokohamaymca.org/



「発達に配慮の必要な子への性教育を考える」'25

主催：助産師(2022年包括的性教育実践助産師育成研修修了) 有馬祐子 & 相賀佳代子
with きらっといっぽの会 阿部友理

内容：特別支援学校も含め様々な場で性教育の実践経験のある者と、発達に配慮の必要な子どもを育てる立場の保護者であり、グループ活動を行っている者から、「心とからだに向き合うことの話」「性教育の話」を伝えてきた経験をもとに気づき・学び・考えについて語りました。

「発達に配慮の必要な子どもに『伝わる』ように工夫する」ためには、安心して新しい情報を取り入れられるだけの心地よい環境が大切であり、そのような環境を提供することは「あたたかな人間関係」を持ち、「安心できるパーソナルスペース」を意識していくことにつながることを参加者と共に再認識しました。

感想：＊一貫して「禁止」「指示」ではなく「心地よくすごせる」などの、プラスにつなげる方向で話していることがとても印象に残りました。また、安全な情報提供という形で伝えていくことも、とても勉強になりました。
＊具体的にロールプレイなどで考えさせる授業が参考になりました。
＊新しい情報をとり入れるときには、安心できる時間が必要であるということがとても印象に残りました。発達に配慮の必要な子たちには、特に大切なことであろうと感じました。
＊長い目で、時間をかけて向き合うことが大事ですね。ライフサポートノート、作ります！



連絡先：有馬祐子 TEL:080-9527-7964 Email:shishunki.arima@gmail.com
URL:https://www.midwifemap.com/mysite/92yamw/staff/
相賀佳代子 Email:aigakayounmnsy@gmail.com
きらっといっぽの会 阿部友理 Email:kirattoippo2017@gmail.com
URL:https://kiratto-2017.jimdofree.com/

神様がくれたHIV

主催：北山翔子

『神様がくれたHIV』著者。1990年代に国際ボランティア参加中にHIVに感染。
感染した経過やその後の生活などについて自らの経験を伝えている。

内容：HIVに感染していることの告知を受けてから、どのようにそれを受け入れ生きてきたのかということありのままとお話ししました。

講演後の質問では「HIVへの差別偏見についてどのように思われるか」という内容があり、感染症というのは差別偏見の対象だと多くの人がそう思っているのだと気づかされました。

連絡先：北山 翔子
Email:shokokitayama333@gmail.com
Facebook:https://www.facebook.com/shokokitayama



“なんとなく”を卒業しよう～伝わる性教育のつくりかた

主催：性教育コミュニティ kokorocolor 思春期保健相談士 星野貴泰
手術室看護師として働きながら中学校・高校で性教育講演をしています。

内容：包括的性教育の大きな特徴のひとつは「科学的な根拠に基づいている」ということ。
でも現実には、「なんとなく」で性教育を否定されたり、苦手に思われたり、あいまいな伝え方をしてしまう場面もあります。今回の発表では、そんな「なんとなく」を見直すための根拠を紹介し、10年以上性教育を続けてきた中で感じたモヤモヤをシェアしました。最後には参加者のみなさんから新しいモヤモヤもいただき、その場で答えました。その内容は星野貴泰のSNSでも公開しています。

いただいたモヤモヤ：

☆「性に経験があることを、若いほどマウンティングしがちであると思うのはなんでなのでしょう。」
☆「そもそも、性教育に『はどめ規定』なんて線引きをされてることにずっとモヤモヤしています！
外部講師として活動する中で、『はどめ規定』との折り合いをどんな風につけていますか??（泣）」
今回をきっかけに、「なんとなく」ではなく、根拠に基づいた性教育と一緒に考えていけたらと思います。



連絡先：星野貴泰 Email:tkstarys.lovelives@gmail.com
URL:tkstarys.com Instagram:@tkstarys

薬物依存症の真実

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
登壇：松本俊彦（精神科医）・ピースさん（医師）・塚本堅一（元NHKアナウンサー）
風間暁（保護司、NPO法人ASK社会対策部薬物担当、薬物依存症当事者）・岩室紳也（HIV診療医）

内容：「薬物依存症」という言葉を自分で勝手に解釈していないでしょうか。「薬物使用者」をダメな、悪い人と決めつけていないでしょうか。毎年同じメンバーで語るからこそ見えてくる真実があります。今年も登壇者の思いを、本音のトークをお互いにぶつけさせていただきました。その結果、参加者から多くの感想や意見をいただきました。

感想：＊このプログラムは、AIDS文化フォーラムでなければお聞きできないことばかりです。リアルな実は、さまざまな問題提起であると受け取った。（50代）＊薬物依存患者さんへの支援、伴走は医療者側、やってあげたいと思っていることと、当事者への方にはギャップが起こり得ることを知ることができた。相談ではなく雑談で信頼関係を作ってから治療は始まると思った。（50代）＊当事者のお話と一緒に伴走してくださっている先生のお話が同じ場で聞けたことが、とても勉強になった。悩める子どもたちの役に立てる仕事をしていきたいと思った。（60代）＊このプログラムの内容は深すぎました。薬物だけではなく、リスカの話や児童養護施設の話ありで、ものすごく考えさせられました。そういった人に、ああしろこうしろと言うのではなく（くそバイズ!）、支援、伴走しないといけないと改めて思い知らされた。皆さまそれぞれのお言葉に迫力があつた。高校勤務で、勤務校の職員は、かなり生徒に寄り添っていると思いますが、顔にいっぱいピアスをつけたり（これも自傷行為?）染めた髪といった外見を見て、すごく批判する外部の関係者もいらっしゃるのも事実。そんな時、自分たちがやっていることは間違っているのではないかと不安になることもあります。このプログラムを聞いて、やはり伴走することに信念を持ってやっていきたいと思った。

（50代）

連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



漫画「あそこで働くムスブさん」-作者が語る0.01ミリの舞台裏-

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

ゲスト モリタイシ

内容：漫画家のモリタイシ先生をお迎えし、今年完結した「あそこではたらくムスブさん」を通して、なかなか知ることができないコンドーム製造の現場のことや、登場人物の恋愛模様の舞台裏を語っていただきました。

コンドームにフォーカスしたマンガはこれまでになかったということで綿密な取材に基づいた実際の製造工程や品質向上のための検査などが描かれていることが紹介され、日本のコンドームが精密かつ衛生的に製造・販売されていることがわかりました。マンガを楽しみながら、コンドームを販売している会社の苦労などを知ることができ、使用への安心感も高まったと思います。

後半では主人公ムスブさんとサガミくんととのラブコメがどのようにして生まれたのかを語っていただきました。クライマックスで両思いになった二人が結ばれるシーンについて、モリ先生は、とにかく二人の幸せな気持ちを重視されたとのこと。特に女性の心情についてはいろいろな人にリサーチしたそうです。ごちないながらもやさしく互いを思いやる二人の姿がこうしたご苦労のもと描かれたことがわかり、さらにキュンとなった人もいたことでしょう。

感想：*こうやってコンドームが作られているんだなあととても興味深かったです。また、ムスブさんと砂上くんが対話して関係を築いている様子が素敵だなと思いました。*漫画制作の貴重な裏側を教えてくださいました！サガミオリジナルを題材にしている漫画があると知って本当に驚きました。*性的同意を理屈で考えるのではなくて、相手を思いやる気持ちを大事に接していけば自然に表現できることなのかもしれないと思うことができました。



©モリタイシ/小学館

連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

山田雅子 Email:neuron.m112@gmail.com

『性的マイノリティの老後安心ガイドブック』活用ワークショップ

主催：特定非営利活動法人パープル・ハンズ

性的マイノリティの老後を考え、つながるNP0です

内容：医療の進歩で長期生存が可能となったHIV陽性者。その一方、「長生きできるようになったがゆえの困難」も顕在化している。当会では昨年度、ケアマネジャーや医療ソーシャルワーカーなどいろいろな老後の専門家をお招きして連続ワークショップを開催し、情報集『性的マイノリティの老後安心ガイドブック』として1冊にまとめた。これは「子なし、おひとりさま、親族縁が薄い・頼れない」人の老後サバイバル術であり、HIV陽性者の老後にもそのまま有用である。

今回のワークショップではその中から「亡くなるときとそのあと」「入院・終末期」「介護期」についてHIV陽性者を含む性的マイノリティのライフスタイルの人の上に起こることを紹介し、そのとき少しでも自分の意思に沿った人生を送り、まっとうするための方法を考えた。

現在、「親族」に頼れない「身寄りなし高齢者」の課題が深刻化している。セクシュアリティにかかわらず多くの人が知るべき情報であり、また社会の側も、親族がいる／するのがあたりまえの発想から脱して、異なるシステムを考える必要がある。病院や介護はその最前線だ。今後、各地でこうしたワークショップを広げてゆきたいと考えている。



連絡先：特定非営利活動法人パープル・ハンズ

〒164-0003 東京都中野区東中野1-57-2 柴沼ビル41号 TEL:03-6279-3094

Email:info@purple-hands.net URL:http://purple-hands.net/

思春期の子もたちのところに響く話とは

主催：思春期保健指導者研修会 北山翔子・宮崎豊久

内容：コロナ禍で開催が出来なかった思春期保健指導者研修が、今年の6月、5年ぶりに開催できました。予約枠はあっという間に埋まり、今年度は3回に分けて実施することになりました。AIDS文化フォーラムin横浜で行うセッションは、2日間で研修のエッセンスを2時間でお届けするもので、毎回とても好評をいただいております。

毎回、参加者はそれほど多くなかったのですが、今年はなんと満席になり、とても驚きました。このセミナーは、プレゼン能力を向上させる、技術的なセミナーと誤解されることが多いですが、実際はどのように子ども達と関係性を築き、本当に届いて欲しいメッセージが伝わるかという点を大切にしています。

本番のセミナーでは、3分のスピーチを行いますが、このセッションは1分の自己紹介に挑戦していただきました。たった1分ですが、もっと聞きたい！と思う人が多くいらっしゃいました。

その違いはどこから来るのか？これをテーマにみなさんと話し合うとても良い会になりました。参加者のみなさんからも、2時間の体験をしてとても良かったので、2日間のセミナーに参加したい、という嬉しい感想もいただきました。



連絡先：宮崎豊久 Email:miyazaki.toyohisa@gmail.com

2-Way先生とサッコ先生のCDM（コンドーム）から学ぶ性的同意

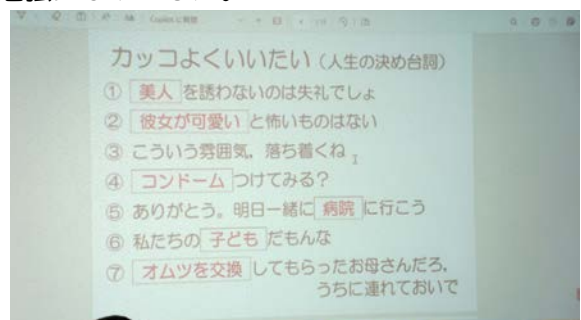
主催：彩の国思春期研究会

埼玉県でユースクリニックや性教育に取り組む多職種の仲間です

内容：性教育ラッパー2-Way先生とサッコ先生が、須藤先生の勤務する開成高校3年生に行った性教育&男子に伝えたい性教育を行いました。2-Way先生は医学生の時、ラップと性教育のコラボができないかと性教育の仲間に加わり、性教育啓発ラップCDMを作成し、性教育コンドームを1万個つくりました。キャッチーな性教育で若者に人気です。当日は参加者に2-Wayコンドームが配布されました。須藤先生も「カッコよく言いたい人生の決め台詞7選」という授業をしてくれました。

なお、フォーラムでの講座の様子は8月20日の日本経済新聞に「性と生殖の権利『SRHR』若者への啓発広がる」として掲載されました。

感想：＊2-Way先生ラップなら生徒たちにも届くかなと思います。恥ずかしいことでなく、普通のこととして。須藤先生のお話。日頃からの生徒との関係性がベースになって、きっと前のめりで話を聞きたいと思う子どもたちがたくさんいるだろうなあと思いました。星野さんの感想（ノリが苦手な子どもたちが置いてけぼりにならないような配慮も大切）も含めて、とても勉強になりました。



連絡先：彩の国思春期研究会

URL:<https://lit.link/sainokunishisyunki>

敢えて問う！男子への性教育で何を変えたい!?!

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：内田洋介（泌尿器科医）・福元和彦（TENGAドクター）・福田眞央（TENGAヘルスケア）
岩室紳也（運営委員）

内容：TENGAを知らずして男子の性教育を語るべからず!!! 思春期男子の問題点を登壇者が熱く語る。

長年のラブコールが実を結び、遠路鹿児島から登壇してくださったのが、第27回日本GI（性別不合）学会の会長を務める一方で、思春期男子の必須アイテムであるアダルトビデオの研究をはじめ多角的な視点から「男性の性」の診療と研究をされてきた内田洋介先生。自らTENGAドクターと名乗り、TENGAを単なるアダルトグッズではなく、メンズヘルスケア治療にも活用されている福元和彦先生。TENGAヘルスケアが10代向け性教育WEBメディアとして展開している「セイシル」担当の福田眞央さん。この3名の講演の後、コンドームの達人の岩室紳也と男子への性教育の問題点を語り合いました。

感想：*男子に伝わる性教育講話に手詰まり感を感じていたので、どうしたら良いだろうと解決策を探ったので参加でした。3名の性教育実践の方々の講話の様子やスライド教材を実際に見せていただき、自分が講話をする際のイメージを膨らませることが出来ました。この夏、TENGAショップに行ってみたくなりました。（40代）*精巣ガンの発症が20歳代～40歳代と若い年齢に多いというのは、あまり知られていないように思う。男子の健康教育という視点でみても、女子よりも手薄のように感じた。（50代）*男子への性教育を丁寧に考察できて良かった。性教育講演が男女問わず一緒に行っていく傾向を感じていたが、分かれて行う意味の大きさもあるのかと思った。来年はどんなことをするのだろうか？と今から楽しみです。（50代）



連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

お坊さんが行う性教育授業 ver.13

主催：古川潤哉（浄土真宗本願寺派僧侶 佐賀県伊万里市 浄誓寺 ）

内容：ホスピスボランティアとしての取り組みから、HIV/AIDS、セクシュアリティ、思春期の生きづらさなどに関わりを持っています。中学、高校などで実施している性教育講演「生と性と死を考える」を模擬授業形式で実施しました。正しい情報や正解だけではなく、思い通りにならない人生をどう生きるか？という仏教的な思想を背景とした内容です。

横浜でも13回目の発表となりましたがたくさんのご参加、ご感想、ありがとうございました。

感想：*性教育と宗教があんなふうに融合できたなんてはじめて知りました。（30代）

*人が向き合わなければならないお話を聞きやすく伝えてくださり、学びながらも楽しませていただきました。もっと聞きたい！（30代）

*性に関する違和感について若者を支援している者として改めて意識しようと思いました。ノーと対等にイエスも表明することの大切さなども伝えていきたいメッセージだと感じました。（30代）



連絡先：浄土真宗本願寺派 浄誓寺
Email: junya@joseiji.org

古川潤哉
URL: <http://furujun.info>

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：基礎講座チーム 白野倫徳（大阪市立総合医療センター 感染症内科部長）

内容：HIV/AIDSについて社会の関心の低下が嘆かれているHIV界限ですが・・・

だからこそ！今、感染の現状はどうなっているのか、患者さんの生活は？陽性者の将来は？医療の今後の展望はどうなのかという広くて深い視点に立つために、今年是大阪市立総合医療センター感染症内科部長として最前線でご活躍の白野先生に基礎講座をお願いしました。HIV/AIDSの歴史にはじまり、ウイルスの構造と感染様式、検査から治療までの経過、特に現在行われている治療については薬の種類と選択肢、効果について大変詳しく丁寧な説明があり、初めて知った人もいればアップデートできた人もいたと思います。

白野先生はAIDS文化フォーラムin京都の運営委員としてもご活躍で、京都での啓発活動やフォーラムの様子などもご紹介くださり、各地のフォーラムの連携がこういう形で実現したことは大変有意義であったと確信できる90分でした。

感想：＊わかりやすくHIV/AIDSの話が聞けた。HIV/AIDSに対する理解をもっと広める必要があると思った。受講してよかった。＊ぼんやり知っていたことが詳しい説明をいただき詳細に理解できました。針刺し切創のお話はとても興味深かったです。貴重なお話をありがとうございました。＊私はHIV/AIDSを学び10年以上経ちますが、改めて初心を思い出せる内容でした。京都のキャラクターも懐かしい！お忙しい中、ありがとうございます。



連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

すきまミ二講座 3日間開催

主催：山田雅子

内容：今年も3日間、各30分でHIV/AIDSについて“誰にでもすぐわかる”基礎講座を行いました。感染のしくみから検査・治療について説明し、少しでも私が日ごろ心がけていることなどをお伝えしました。2日は前日のモリタイシさんの講座で得た「いやなことはしない」という人間関係の根幹にある思いやりについてお話ししました。3日は絵本『りつとにじのたね』（ながみつまき・リーブル出版）をご紹介しました。

こぐまのりつは「かわいいもの」が好きな男の子。しかしそれを理由に仲間のくまたちからいじめられ『くまのくに』を離れて旅に出ます。旅の途中でもさまざまなマイノリティ差別に直面して悩みますが最後には、誰もが大切にされる場所『にじのくに』にたどり着きます。けれどもお話はここでは終わらないのです。りつのとった行動とは・・・？ 30分という時間はあっという間で、深くは踏み込めませんが、堅苦しくなく気楽に参加できる場所であり続けたいです。

感想：＊基礎的な知識から実践にあたっての心構え、言葉についてもとても良い学びの時間でした。

雰囲気も温かく安心して受けられました。

＊山田先生のお話いつもわかりやすく楽しいです。ハッピーな気持ちになります。

＊真心の感じられる素敵な30分でした。毎年楽しみにしています。今年もお聞きできてうれしかったです。

「いやなことはしない」「いやだと思ったら教えてね」の話は心に残りました。

＊HIV感染の最新知識を知ることができて良かったです。



連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

山田雅子 Email:neuron.m112@gmail.com

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺僧侶）・ナナさん（イスラム教徒）・宮崎豊久（運営委員）
平良愛香（日本基督教団川和教会牧師、カトリックHIV/AIDSデスク委員）・岩室紳也（運営委員）

内容：AIDS文化フォーラムin横浜ではこれまで20年連続で「宗教とAIDS」のセッションを開催してきました。HIV/AIDSを取り巻く様々な課題（性教育、スティグマ、偏見、ジェンダー等々）を考える際に、何千年にもわたって続いてきた宗教という切り口で、しかもキリスト教、仏教、イスラム教といった異なる教えの視点でとらえ直すと、人が抱える様々な課題の根底にあることが、聴衆のみならず、登壇者の一人の気づきになっていました。

感想：*さまざまな宗教の方が同じ場所に集い、それぞれの宗教についてや価値観、性について語られるのは本当に貴重な機会だと思います。（30代）*キリスト教学校に勤務しています。このように本校の宗教部も語ってくれたらなあと思いました。お話の中にあつた、道徳的な要素として語られる事がすごく多くて、救いとしての宗教の存在という語り口があったら、救われる子どもたちも増えると感じました。

（40代）*多数の宗教者が語り合うというなかなかない場を毎年作っていただきありがとうございます。今回もとてもためになりました。これを糧に少し進みたいです。（50代）*1番印象的だったのは、9.11の時にイギリスに住んでいてイスラム教を隠していた…という話でした。私自身もロンドンに住んでいて、さまざまな宗教を信仰している友人が現地でたくさん出来ました。イスラム教を信仰している英語の先生は9.11やロンドンで起きたテロの話聞いた時のことを思い出しました。何か悪いことが起きた時に、何らかの形で同じカテゴリーに属してる場合、攻撃を受けることがひどく理不尽だと感じたことを覚えています。このような場があることで、さまざまな方（今回の場合は特に宗教を）を知る機会は貴重だと思っています。（40代）

連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



多文化・多言語シャワー

主催：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を多言語で受けているNPO団体。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いで2015年度からAIDS文化フォーラムに参加している。

内容：在日外国人が日ごろ感じていることを疑似体験してもらい、そこから多文化共生について考えていくプログラムを実施。今年は参加者に、中国語、台湾語、ポルトガル語、ネパール語の多言語シャワーを体験してもらい、聞き取れた単語から話を掘り下げ交流を深めていきました。国籍を超え、人は伝えようとする気持ち、理解しようとする気持ちの大切さを再認識することができました。また、参加者からは、日ごろの活動の中で感じている疑問や課題について意見が出され、プログラムに参加することでとてもいい学びになったとの感想も寄せられた。

感想：*楽しいときをありがとうございました。自分がわからない言語でたくさん話されると、一生懸命聞き取ろうとしてもわからず、理解できないことに、悲しい気持ちになりました。日本にいる外国籍の人の気持ちが少しわかったような気がしました。今後は少しでもお互いのために何ができるか考えて行きたいと思います。*昨年参加して楽しかったのも、今年も参加しました。一度に様々な言語、文化を知れる機会は身近にないので、楽しい時間でした。



連絡先：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA 2階

TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768 Email:sumai.sc@sumasen.com URL:sumasen.com

性暴力サバイバービジュアルボイス「写真で思いを表現する」

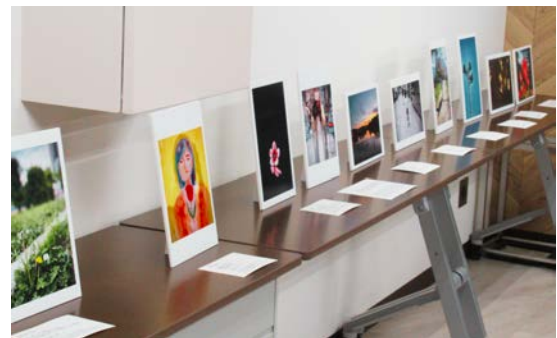
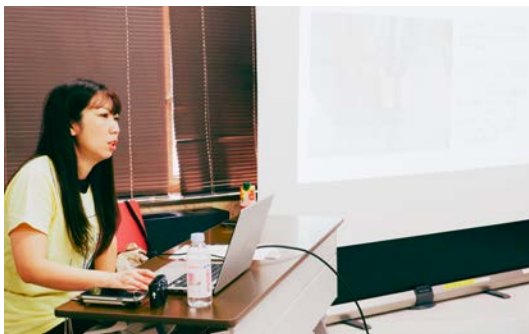
主催：STAND Still

性暴力サバイバー自らが、公に声をあげずとも写真で表現することで、相互エンパワメントを目指すプロジェクト。

内容：トークイベント：性暴力サバイバービジュアルボイス「写真で思いを表現する」に代表、副代表が登場し、団体の活動内容について紹介、それぞれの作品について思いを語りました。昨年より多くの方にご参加いただく等イベントに継続して参加することの意義を感じました。

感想：＊短い言葉の中に多くの思いがあることを感じましたし、写真という媒体で表現するということがとてもいい活動だと思います。

＊このような写真を介したつながりの場は選択肢が広がるようでいいなと思いました。



連絡先：STAND Still

Email:standstilljapan@gmail.com

URL:https://standstill.jimdofree.com/

映画 ノルマル17歳 –わたしたちはADHD–

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：北宗羽介監督・宮崎豊久・岩室紳也

内容：「映画『ノルマル17歳。』は、ADHDとは何かを描いた作品ではなく、「ADHD」と見なされた人やそれを取り囲む人たちが、その「言葉」や「記号」の枠組みの中にとらわれ、その無理解の中で苦悩していく姿を描いて行く。私たちの多くが「普通」「常識」的に生きていると思いがちな中で、「自分が思っている普通の世界が本当に普通なのか」を見なおす、心の旅立ちの物語だ。」（HPより）

AIDS文化フォーラムin横浜では「エイズ」を出発点として、「多様性」を受け入れ、「偏見」や「差別」がない、「普通」に囚われない社会を目指し続けてきました。HIV/AIDSに直接かかわっている、つながっている諸課題だけではなく、同じような課題を抱える他分野の視点に学ぶという意味で、敢えて「ADHD」の二人の高校生を扱った映画上映と北宗羽介監督もお迎えし、監督の想いをお話いただきました。

感想：＊自分のクラスにもグレーゾーンの子がいます。忘れ物や友達とのトラブル、自己管理ができません。その子に対して叱るべきなのか、ダメだよと理解してあげること、どうしてあげることが大事なのかわかりません。映画を見て、朱里の姉の考えも、絃の母の子を想う気持ちも理解できます。なにが正解かはわかりませんが本人たちの苦しい気持ちの理解が深まりました。（20代）＊監督さんのトークショーもあり大満足。ADHDを理解、知ることは簡単だけど、お互いが傷つかずに（不満を持たずに）接することは難しいと思いました。今回は当事者目線の物語でしたが当事者の家族、友達など、周りの人の目線でも観てみたいと思いました。病気を知った、理解したその先についてどうしたらいいか自分自身でも、恋人とも考えていきたいと思いました。

（20代）

連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会



国際学会で教えてもらった「性を語る場づくり」

主催：性の健康イニシアチブ

「健康的な人間関係」を切り口にして性の話をしている民間団体

内容：事前広報において「WAS（性の健康世界学会）が発表している性の権利宣言、セクシュアル・プレジャー宣言などを読み解きつつ、性について語るためのアティチュード（態度）や雰囲気作りなどについて一緒に考えましょう。」と呼びかけた通り、ファシリテーターが何らかの正解を知っていてそれを披露する場とするのではなく、参加者皆さんとともに考える場としました。

前半は、ファシリテーターからの情報提供です。

最初に、過去に参加した国際学会の様子を、写真を交えて紹介し、日本の学会とはまた違った雰囲気を伝えました。続いて「性の権利宣言」と「セクシュアル・プレジャー宣言」というふたつの国際文書について解説しました。後半は情報提供を受けて、グループワークをしました。

「性に関して話す時、こんな場は嫌だ！」というテーマでグループごとに話し合いをしてもらい、各グループに配った模造紙に出た意見を書いてもらいました。

そのあと、自分のいるグループ以外のテーブルに訪れてもらい、そのグループで出ている意見を見て、模造紙にコメントを追記してきてもらいました。

最後に自分のグループに戻って「性を語る良い場のキーワードは何？」というテーマで話し合いをしました。

感想：*とてもいい方にあえて感謝でした。よかったです。

*話を聞くだけでなく、講座に参加することで学びが深くなることを再認識しました

連絡先：性の健康イニシアチブ

<https://sexualhealth-initiative.org>

hello@sexualhealth-initiative.org



お口の健康

主催：神奈川県歯科医師会

内容：今年のAIDS文化フォーラムin 横浜では神奈川県歯科医師会（以下、本会）の会員として「お口の健康」と題しお話をいたしました。口の健康はすべての人に大切な事は皆さんもよく理解されていると思います。最近の研究では糖尿病をはじめとした生活習慣病と口の健康、特に歯周病は深くつながっていることも分かってきました。また皆さんもよくご存知の「8020運動」の最新の達成率は60%を超え、運動が始まった1990年代当時の約7%とは雲泥の差です。これもひとえに国民の口の健康への意識の向上とむし歯や歯周病で問題があればすぐに健康保険で歯科受診ができる国民皆保険に依るところが大きいです。

HIV陽性者の皆さんはどうでしょうか。HIV陽性者の皆さんが歯科にかかろうと思ってもHIV感染症を理由に診療拒否にあう、また診療拒否を恐れ告知せずに受診する、過剰な感染対策をされ不快な思いをする、などの現実があります。本会は神奈川県行政と協力し1994年の横浜での国際エイズ会議を機会にHIV陽性者の皆さんの歯科の課題に取り組んで来ました。

この取り組みは神奈川県の協力を得てベトナム国南部のHIV陽性者の口の健康向上事業にもつながっています。今回の講演の中では「Futures Japan」の調査や本会会員の感染対策の意識調査からHIV陽性者の歯科の受診状況をお示ししながら、HIV陽性者の長期療養時代における口の健康の大切さフレイル（虚弱）予防のためのオーラルフレイル（お口の虚弱）対策についてお話ししました。

連絡先：神奈川県歯科医師会

〒231-0013 横浜市中区住吉町6-68

TEL:045-681-2172 FAX:045-681-2426

URL:<https://www.dent-kng.or.jp/>



映画『カミングアウトジャーニー』ダブルシネマ・セッション ーカミングアウトとその後の物語ー

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

出演：福正大輔（公認心理師・ASK認定依存症予防教育アドバイザー、俳優）
ぽんつく（パートナー）、スペシャルゲスト

内容：舞台演出家・福正大輔さんによる、友人、職場、家族へのカミングアウトを追ったドキュメンタリー映画と、新たに完成したばかりの続編の上映を行いました。複数の依存症のこと、セクシュアリティのこと、HIVのこと、そして同性婚のこと。2本立ての豪華上映の後には、福正さんとぽんつくさん、そしてぽんつくさんのお母さんが登場し、本音トークに花が咲きました。

感想：＊昨年度見逃してしまったので、今年作品を見られて良かったです。出来立てホヤホヤの続編も見せていただき、本当に救われた気持ちになりました。上映後に福生さん&ぽんつくさんが登壇してくださり、温かい気持ちになれました。学校関係者なのですが同僚の先生たちに見てほしいと思いました。（40代）

＊自分自身カミングアウトは他の人とより深く繋がりたいために行うと思っていたので、ぽんつくさんの考えが自分の考えと非常に近いものであったため共感しました。逆に福正さんのカミングアウトをするしないの判断は自分を受け入れる受け入れないの判断するのは相手だから積極的にカミングアウトしているという考えは自分の中では新鮮で考えが変わりました。



連絡先：プロジェクト ドロブラ(問合せフォーム)
URL:<https://dorobura.wixsite.com/a-cup>

元ディズニーキャストと考える 自己肯定感

主催：宮崎豊久

登壇：倉持香奈（元ディズニーキャスト）

内容：「元ディズニーキャストと考える自己肯定感」をテーマに、自己肯定感の構造や低下の原因、日常でできる改善行動などを紹介しました。

特に「6つの感」（自尊感情・自己受容感・自己効力感・自己信頼感・自己決定感・自己有用感）を木の成長に例えて視覚的に表現しました。

風の時代における“目に見えない価値”の重要性にも触れ、アフメーションやリフレーミングなど、実践的な自己肯定感アップの方法を紹介。

来場者からは「参加目的を達成できた」「自己肯定感の基本だけでなく、ディズニーキャストの経験も盛り込まれていて、独自の考察がありました。」と好評をいただきました。

終了後に直接お声掛けくださった方には、お話しする中でヒントを得て喜んでいただけたことも大変嬉しく印象的でした。



連絡先：Happiness Creation Academy 代表 倉持 香奈（くらもち かな）
Email:hcamochico.info@gmail.com

男性の生きづらさ

主催：特定非営利活動法人SHIP

2007年から性的マイノリティの支援を実施。2025年から男性被害者の総合相談を開始。

内容：トークセッション「男の生きづらさ」

近年、配偶者らパートナーからの暴力（DV）が社会問題となっているが、被害者のうち男性の割合はこの15年間で1.8%から29.5%に増えている。

男性にどんな生きにくさがあるのか考えるために、15年にわたって、DVに悩む男性の電話相談を受けている神奈川人権センターの深田独氏とSHIP星野慎二でトークセッションを実施した。

深田独氏から、「電話相談を始めた15年前は加害者からの相談が多かったが、近年は被害に関する相談が多くなっている。『稼ぎが少ない』『男なのに育児をしない』という言葉の暴力などや、家を追い出されるといった被害が増えた印象。しかし、男性を保護するシェルターはない。」という報告があった。

参加者から次のような感想もあった。

「男性被害者に着目され、取り組まれていることに感動した」「女性を対象とした仕事をしていても男性の生きづらさを感じることが多々あります。データを基にした話の内容にもお二人の講師の方のお話にも共感できることが多々あり、普段のモヤモヤを言語化してもらえた気がしました。」



連絡先：（認定）特定非営利活動法人SHIP

〒221-0834 横浜市内神奈川区台町7-22 ハイッ横浜713号室

TEL:045-306-6769 URL:<https://ship.or.jp>

【拡大版！】性的同意を文化に

主催：早稲田大学性的同意ハンドブックチーム

内容：昨年に続き、早稲田大学の学生主体で発足した「性的同意ハンドブックチーム」による活動紹介とワーク体験が行われました。学生が性暴力の被害者にも加害者にも傍観者にもならないための知識と行動力を養い、将来社会の中心となる早稲田生ならではの主体性と気概をもって活動を継続されています。昨年の講座でも触れられたように、この取り組みは全学部での実施が望ましいとされ、署名活動をはじめ精力的な活動が続けられています。今回も会場参加者による「ピザをつくる」というグループワークを通じ、性的同意の考え方を体感する機会が設けられました。ワークの背景として、アメリカの教育者アル・バーナキオ氏が、アメリカの「性行為＝野球」という比喻が「攻守」や「勝敗」といった発想で、パートナー間の尊重を軽視する危険を指摘し、「同意」「楽しみ」「喜び」「満足感の共有」を重視する考え方を提唱し、このピザづくりワークが生まれたという経緯が紹介されました。

会場からは「HIV陽性者との関係における性的同意をどのように考えるのか」といった踏み込んだ質問も寄せられました。現状では検討範囲外であるものの、今後は視野に入れる必要があるとの応答があり、ハンドブック自体も改訂を重ね進化していることが示されました。学生主体的でのこの柔軟な取り組みは、今後のさらなる発展が期待されます。

感想：＊早稲田大学の皆さんの取り組みを伺い、中学生にも使える内容だと感じた。学校での指導に活かしていきたい。素晴らしい活動なのに、大学での理解に労力を費やし、活動するメンバーも減っていると伺い悲しくなった。フォーラム全体に渡って、若者はもちろん、頭の硬い年配層こそ、この性的同意や、ジェンダー平等教育について知るべきだと感じた。

全ての教員に受けてほしいです。

＊性的同意って法においても重要ですし、コミュニティの中での解釈もさまざまですね。頑張って理解を深めていきましょう。



連絡先：Instagram: @consentbook_wsd

夜回り先生と考える なぜ、若者の問題が解決しないのか？

主催：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

登壇：水谷修（水谷青少年問題研究所所長）・宮崎豊久（運営委員）・岩室紳也（運営委員）

内容：水谷修さんをはじめ、登壇した3人は共通して「若者の問題が解決しないのは社会の仕組みと大人の他人ごと意識にある」と考えています。特に他者と直接かかわることの大切さは言うは易し、行うは難しです。結局のところ、一人ひとりができることは何かを考え、特効薬を求めるのではなく、できることを重ね続けるしかないことをフロアの皆さんと共有させていただいた会になりました。

感想：＊今年も水谷先生にお会い出来て嬉しく思いました。来年度もお会い出来ると信じています。どうかお身体を大事になさってください。（40代）＊水谷先生のお話を聞いて、自分ができることをがむしゃらに頑張るしかないんだと改めて思いました。ありがとうございました！来年も水谷先生のお話をぜひお伺いしたいです。（40代）＊直接対話することの大切さを実感しました。

（50代）＊来年度から私立高校の授業料が無償化され、今まで金銭的に私立の広域通信制高校が選択肢になかった中学生も、そこを選びやすくなると思います。楽そうだからと安易に広域通信制高校を選ぶ学生が増えた時、人との関わりの中で育つ力が育たないままになるのではないかと大変危惧しています。

不登校生徒もオンラインでの単位を一定程度認められ

（それはいいことかもしれませんが）、広域通信制高校を選ぶ中学生も増え続け、現場感覚としてはとても心配です。

（50代）



連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

若者の失われた自己肯定感とその高め方

主催：一般社団法人日本心理療法協会 代表理事 椎名雄一

心理カウンセラーの養成と研究を主な活動としています。特に中高生の不登校問題、若者支援をしています。

内容：若者の自己肯定感が低い理由とその対処方法について講演をしました。自己肯定感やモチベーションという言葉が必要になった背景から私たちを取り巻く環境、子どもたちの自己肯定感をどうしたら良いかなどを話しました。参加者は積極的に参加して交流も多く良い会になりました。

感想：＊未就学無就労の青年と話すことがあるが、今回話を聞いて腑に落ちたことがあり、良い学びになりました。



連絡先：一般社団法人 日本心理療法協会 〒194-0013 町田市原町田4-1-10 フジモトビル4F

なぜ私たちはここにいるのか

主催：ナルコティクスアノニマス南関東エリア

ナルコティクスアノニマスは薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

内容：タイトル「薬物をやめたい」

発表会場の入り口にメンバーの誘導があったのがよかった。

今年は一般の方にも入っていただけたのが良かった。



連絡先：ナルコティクスアノニマス

Email:naminamikanto.pi@gmail.com

URL:https://najapan.org

運営委員と話そう！本音のネットワーキングタイム

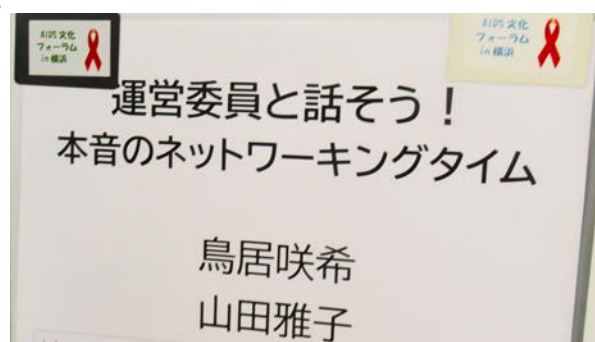
主催：鳥居咲希 山田雅子

内容：本音を語ることができる場所、本音を聴くことができる場所としてのAIDS文化フォーラムin横浜の本質を体現した空間でした。

企画者の鳥居さんの急病により急遽交代した山田と数名の運営委員が皆さまをお迎えしました。企画はボランティア参加者からの提案により、「実は、私・・・」と『本音』を語る時間となりました。その内容はそこにいた人だけの秘密です。ちょっと意外(?)な本音や告白も飛び出して、驚いたり笑ったりしながらそれを糸口に思うことを語りあう、貴重な時間となったと思います。

感想：＊自由に意見交換できる場は大切だと思います。

＊こういう場は他にはない珍しい場所なので
ぜひ続けてください。



連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

山田雅子 Email:neuron.m112@gmail.com

8月3日に予定しておりました「当事者と支援者が戸惑っていること・薬物依存症の支援について考える会」は、講演者体調不良のため中止となりました。

アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの女性と子どもネットワーク（AWC）：教育支援を中心にタイ北部山岳地帯の学校、AIDS孤児施設等を支援している。同時に日本の中の子どもの性搾取に反対する活動も展開中。

内容：現在、オンライン上で子どもを性的商品のように扱う性虐待ビジネスが横行し、AI技術の発達で本物と見分けがつかないフェイク画像がネット上に氾濫し、身に覚えのない画像が流出する事件も起きている。

教員による盗撮事件なども記憶に新しい。警察庁の発表では、2022年の子ども買春の検挙数は2,206件、被害を受けた子どもの人数は1,461人。子どもポルノの検挙数は3,035件で、被害児童数は1,487人、そのうち小学生以下が18.9%。小学生以下は盗撮による被害が全体の39%で、「自画撮らせ」による被害は全体の38.8%を占めている。小学生以下の子ども達の「自画撮らせ」被害も22.3%となっており、騙されて被害者になっている現状が後を絶たない。

女子高校生を売り物にして客にさまざまなサービスをさせるJKビジネスも低年齢化しており、その被害は広がっている。

AIの登場は、製造時の実在、非実在を根拠とした犯罪化の判断はほぼ不可能になっており、現行の法律では新種の性搾取から子どもを守ることができない状況である。喫緊の課題に関して「児童買春・児童ポルノ禁止法」の抜本的な改正の重要性を来場者に伝えた。

連絡先：アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC 内

TEL&FAX:045-650-5430 Email:awc@h6.dion.ne.jp URL:<http://www.awcnetwork.org/>



カトリック中央協議会HIV/AIDS部門

カトリック中央協議会HIV/AIDS部門：日本のカトリック教会では1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容：啓発活動の一環として、会場内においてHIV/AIDSに関するポスター展示を行いました。

また、リーフレット「HIV/AIDSについて話したことがありますか」の改訂版を配布し、よりわかりやすく、親しみやすい情報発信を心がけました。さらに、トートバッグやクリアファイル（レインボーカラーおよびブルー）といったグッズも併せて頒布し、関心を引く工夫を試みました。猛暑の中にもかかわらず、プログラム全体への来場者数は一定数ありましたが、残念ながら展示スペースへの立ち寄りはありませんでした。情報の受け取り方や関心の持たれ方に差があることを実感しました。

今後は、展示スペースへの導線の工夫や、来場者の目に留まるようなアピールの方法（例えば、案内表示の改善やスタッフによる声かけ等）を検討し、より多くの方に足を運んでもらえるよう改善を図れたらと考えています。

連絡先：日本カトリックHIV/AIDS部門

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館6階

TEL:03-5632-4414 FAX:03-5632-7920

Email:hivaidscbcj.catholic.jp URL:<http://cath-aids-desk.jp/>



神奈川県ユニセフ協会

神奈川県ユニセフ協会：世界の子どもたちの生存・発達・保護・参加のためのユニセフ協力活動(広報募金、学習支援など)を行っています。

内容：今年も動画上映のほかに、HIV感染症について展示をしました。

HIVと共に生きる若者の総数は260万人に上り、10～19歳の女の子のHIV感染の総数は、2010年以降、19万人から9万8,000人へとほぼ半減しているものの、女の子がHIVに感染する可能性は、2022年においても男の子の2倍となっている報告。また、女の子がHIV感染の矢面に立ち続けているのは、その一因として、安全な性交渉のために交渉する力を持っていないようなジェンダー不平等があることの説明展示を行いました。

展示と合わせて当協会が昨年から取り組んでいるガーナ

指定募金「児童婚を終わらせるために」のご案内や絵本

「こどもの権利を買わないで」の紹介をしました。

開催期間中、絵本を手にとってご覧になる方がいらっ

しゃいました。
当日は募金箱を設置し、1,600円の募金をお預かりすることができました。



連絡先：神奈川県ユニセフ協会

〒231-0063 横浜市中区花咲町 2-57 ミシナビル201 TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951

Email:info@unicef-kanagawa.jp URL:www.unicef-kanagawa.jp

「極私的梅毒展Vol.9」

コケ丸（個人）：ハコ物館作家

内容：2023年に次いで2回目の参加となる本展は、その後、歌舞伎町や大阪のグリ下やコミュニティセンターdistaなど各地で展示を続け、9回目を迎えた。もともとは、梅毒に感染したゲイの親友ふたりの体験を、半立体のインフォグラフィックにしてハコに詰めて、感染から完治までを伝える展示だった。が、ゲイコミュニティ外で展示する機会が増え、若い女性へ向けた「先天梅毒」の情報を新たに加えた。そして今回、特にこのハコについて、教育関係者や保健師、セックスワーカーの方から「廊下や待合室に展示して見てもらいたい！欲しい！」という声を多く頂いた。あるいは「Tシャツにしたい」と。AIDS文化フォーラムでは、常日頃から現場でリアルな声を聞いている方たちから、“本音”はもちろん、アイデアを頂ける貴重な場でもある。

すべてのハコの量産は難しいが、例えば、先天梅毒のハコに絞ってキット化し、プラモデルのように参加者で組み立てながら作るワークショップならできるかもしれない。あるいは、Tシャツにプリントしたハコを「着る」ことで性感染症の知識を楽しく伝える啓発スタイルも。展示の枠を超えた、新たな伝え方・広げ方を探っていきたいと痛感する3日間だった。



連絡先：「極私的梅毒展」コケ丸

Email:tentetsuki@gmail.com instagram:@kokemaru55

ジェクス株式会社：コンドーム・潤滑ゼリーをはじめとした衛生用品を製造販売している大阪のメーカー

内容：本音を伝える難しさという事で、モノづくりや商品の説明をする現場では、本当はこう伝えたいという気持ちと受け取り手との気持ちが全く変わって異なってしまう事があります。男子の性教育のセッションでは、多くの思春期の方と接点を作っている方がたのお話を聞き、打ち明けられない悩みを抱える方にどのような声掛けをするべきかを考えるきっかけとなりました。自分だったらどう話すことができるのか、さまざまな考えに触れることで自分なりの意見を考えていきたいと思います。

今回のブースでもコンドームや潤滑ゼリー、そして新作のボディローションを展示し、サンプルを配布いたしました。コンドームの素材の違いや、避妊・性感染症予防の大切さを伝えてはおりましたが、初日のセッションで印象に残ったこととして、知識として

知っていても自分事化してセックスをしている相手に本音を語ることは実際難しいという言葉がありました。

性を楽しむために大切なコンドームを当たり前携帯し、セックスをする状況になること関係なしにいつでも身を守れる状態にしてもらうこと、セックスに対して本音を伝えることは怖くない、当たり前なんだということを子どもたちに啓発していければと思います。



連絡先：ジェクス株式会社

〒540-0012 大阪府大阪市中央区谷町2丁目3番12号

TEL:06-6942-9002 URL:<https://www.jex-sh.jp/>

厚労科研費HIV母子感染予防班

厚労科研費HIV母子感染予防班：

HIV母子感染予防としてさまざまな国民向け知識の啓発活動をしています。

内容：今回のテーマは「もっと知ろう！HIV・性感染症予防」として3日間にわたる展示での啓発活動を行った。当班のなかでも「国民向け知識の啓発活動」分担班メンバーが参加して啓発を行った。ポスター展示の約半分は当班の過去40年にわたるHIV感染妊婦の分娩転帰、ならびにHIV感染の有無を含めた調査研究の概要等、班活動全体がわかるような内容を掲示した。そして後半の半分で、HIV感染妊婦とHIVコーディネーター・ナースの具体的な「心情のやりとり」について掲示した。加えて、机上では当分担班が作成してきた各種配布資材を展示・配布しながら、HIV含む性感染症予防のショート動画を供覧した。

今回、展示会場の入り口近くにブースを持つことができ、来場者のほとんどが足をとめて配布資材や動画を視聴頂くことができた。3日間で、300セットの資材を配布することができた。HIV母子感染予防については、最近垂直感染がほぼ防げていることに驚く人が多い一方、医療関係者やカウンセラーなど現場対応を多くされている人たちからは、現場の“生の声”をきく機会がほとんどないので「心情のやりとり」展示はとても貴重な発表で、このような声についてもっとひろく知ってもらうべきだとの感想を頂いた。



連絡先：分担研究「多様な世代の国民向けHIV感染妊娠の情報啓発アプローチの実践と基盤開発に向けた研究」 分担研究者 高野政志 防衛医科大学校病院産科婦人科学講座 高野政志

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2 防衛医科大学校産科婦人科学講座

TEL:04-2995-1511

Email:hivboshi@gmail.com

URL:<https://hivboshi.org/>

性の健康イニシアチブ

性の健康イニシアチブ：「健康的な人間関係」を切り口にして性の話をしている民間団体

内容：2023年以来3年連続の参加となります。当会は、「私もOK、あなたもOK」な人間関係（＝対等な人間関係、健康的な人間関係）を土台として、対人援助職向けの態度（アティチュード）の研修、性教育を実施している人たちに向けた包括的セクシュアリティ教育や『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の読み解き方の研修、生活者に向けた「私もOK、あなたもOK」という考え方を広める活動を行っています。また、2024年中にスタートした新プロジェクトである「健康的な人間関係」を描くショートドラマの撮影は複数回行えた一方、編集と（YouTubeやInstagramでの）公開が追いついておらず、2025年下半期にしっかり取り組んでいきたいと考えています。

今年、ブースでは、性の健康について学ぶためのオススメ書籍の販売を行いました。

日本における性教育は、長い間、「妊娠/避妊」

「性感染症予防」といったメディカルな話題が中心となっていたため、かつては、人間関係の話をしていると「それは性教育なのか？」という疑問を持たれることが多くありましたが、今年ブースを訪れた方のほとんどは「人間関係の視点から性の話をしている」という説明をすんなり理解してくれた様子でした。性教育において人間関係の話題は不可欠であるという理解が広がっていることを感じました。



連絡先：性の健康イニシアチブ

URL:<https://sexualhealth-initiative.org> hello@sexualhealth-initiative.org

ナルコティクスアノニマス南関東エリア

ナルコティクスアノニマス南関東エリア：ナルコティクスアノニマスは薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

内容：NA紹介ブースに立ち寄っていただけの方が多かったです。

特に福祉・医療関係の方が多く、NAのリーフレットを100部準備していたが、3日間ですべて無くなった。



連絡先：ナルコティクスアノニマス

Email:naminamikanto.pi@gmail.com

URL:<https://najapan.org>

日本HIV情報センター（JHIC）

日本HIV情報センター（Japan HIV Information Center）：JHICは、皆が共に生きる社会を目指し、HIV/AIDSに関する情報提供、相談などを行う非営利団体です

内容：JHICが啓発で主に伝えたいことは「明るく、楽しく、性感染症やセーフターセックスについて考えよう！」です。今年はセーフターセックスについて「安心出来る関係」「セーフターグッズ」「予防薬」の3つのメッセージをパネルに貼り、来場者には共感出来るところにハートのシールを貼ってもらいました。

テーブルには例年通りユニークなデザインのコンドーム、年々新しいコレクションが増えています。パネルのメッセージとコンドームコレクション、QRコードで解答が分かる簡単なHIVクイズのフライヤーも置いて、性をいやらしいもの・隠すものと捉えるのではなく、誰もが前向きに性の問題に向き合ってくれることを願い、啓発を続けています。

今年はメンバーの友人が作成したタイルアクセサリーの物販も行いました。ご厚意でレッドリボンをデザインした可愛いアクセサリーを作って下さったので、来場者にも大好評でした。



連絡先：日本HIV情報センター（JHIC）

Email: jhic.jpn@gmail.com

URL: <https://sites.google.com/view/jhic/>

日本ハビタット協会

認定NPO法人日本ハビタット協会：日本ハビタット協会は、国連ハビタット（国連人間居住計画）とともに世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています。

内容：日本ハビタット協会がケニア西部ホーマバイ郡にて実施している生理環境改善による女性のエンパワメント事業を紹介するパネルのほか、ケニアの女性グループが作った生理用布ナプキンや下着、石鹸を展示しました。

来場された人たちは古着から作った布ナプキンやアボカドなどの天然素材を使った石けんに興味を持って下さり、ケニアの女性たちを取り巻くさまざまな課題について熱心に耳を傾けてくれました。

ケニアの少女と女性たちが直面している月経衛生対処をはじめFGM（女性性器切除）、SGBV（ジェンダーに基づく暴力）、児童婚などの問題を知っていただく機会になりました。

さらに、日本でも起きている生理の貧困やジェンダーに関する問題についても考えるきっかけになったと感じています。



連絡先：認定NPO法人日本ハビタット協会

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ103号

TEL&FAX: 03-3512-0355 Email: info@habitat.or.jp HP: <https://habitat.or.jp>

横浜AIDS市民活動センター

横浜AIDS市民活動センター：市民の皆さまに、エイズ・HIV関連の情報提供を行う団体です。ニュースレターの発行やWEB・Xでの情報発信、学校への出前授業、啓発資材や図書の貸出、イベントや学習会の企画などを行っています。

内容：展示ブースでは、エイズ/HIVに関する情報はもちろんのこと、性感染症についてわかりやすく解説した冊子や、LGBTQに関するパンフレット、そして各種相談窓口の案内などの資料を幅広く取り揃え、皆さまに自由にお持ち帰りいただきました。

当センターの公式マスコットキャラクター「コムちゃん」も参加いたしました。多くの方に名前を覚えていただけており、たくさんの方々から温かいお声がけをいただきました。

このフォーラムには、エイズ/HIVに対する高い意識や関心をお持ちの方が多数来場されます。

しかし最近では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、社会全体のエイズへの関心が薄れているように感じます。

今後は、このフォーラムで生まれた熱量を一般の方々にも広げていけるような活動を進めていきたいと考えています。



連絡先：横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階

TEL:045-650-5421 Email:info@yaaic.gr.jp URL:https://yaaic.gr.jp/

NADA JAPAN

NADA JAPAN：NADA(National Acupuncture Detoxification Association)は、1985年にアメリカで設立された、依存症やPTSDに対する鍼治療を行う団体です。現在、世界41か国のNADAが各国独自の活動を行っています。私たちNADA JAPANは一番新しく、41か国目の活動拠点として、2016年に発足しました。NADAプロトコルは、薬物依存症だけでなく、アルコール依存、処方薬依存、自然災害後のPTSDにも用いられています。

内容：今回初めての参加となりました。当初は「耳鍼体験」ができるということで準備を進めていたのですが、会場の都合で耳鍼が出来ないとなり、なんとか実施できないかと会場の方と何度も協議をさせていただきましたが、結果としては不可となってしまう、とても残念でした。

耳鍼体験が出来ないとなり、ポスター展示での参加としましたが、ポスターだけでも興味を持ってくださる来場者の方も数名いてくださり嬉しかったです。

次回はポスター展示ではなく、来場者として参加させて頂こうと思います。ありがとうございました。



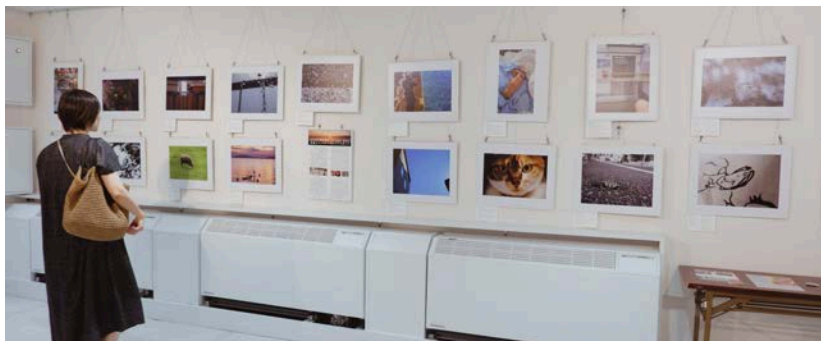
連絡先：一般社団法人NADA JAPAN

Email:nada.jpn@gmail.com

URL:https://www.nada-japan.com

STAND Still：性暴力サバイバー自らが、公に声をあげずとも写真で表現することで、相互エンパワメントを目指すプロジェクト。

内容：性暴力サバイバービジュアルボイス写真展20点の作品を展示し、多くの方にご覧いただきました。一作品ずつじっくりとご覧くださる方、少し離れてご覧の方、複数回ご覧くださる方、スタッフに感想を伝えてくださった方、それぞれ多様な見方で、感じ方も様々な様子でした。また設営にはスタッフの方や別の展示団体の方などにもご協力をいただき展示することが出来ました。ありがとうございました。



連絡先：STAND Still

Email: standstilljapan@gmail.com

URL: <https://standstill.jimdofree.com/>

TEGA ヘルスケア

TEGA ヘルスケアが運営する「セイシル」：

性教育 web メディアとして、若者が抱える性のモヤモヤにこたえています。

内容：今回の展示では、「デートDVチェッカー」や「コンドーム」、さらには子ども向けの配布資料など、性教育に役立つさまざまな教材を紹介・配布しました。多くの来場者の方々が展示ブースに足を止めてくださり、「こういう教材が欲しかった!」「学校の授業で実際に使っていますよ。子どもたちの反応がすごく良いです。」といった嬉しい感想をたくさんいただくことができました。現場で直接応援の声を聞けたことは、私たちにとって今後の活動の励みにもなりました。

また、講演では「男子への性教育」をテーマに、TEGA ヘルスケア教育事業部の福田が登壇し、TEGAドクターの福元先生や内田先生と共にお話をさせていただきました。進行は岩室先生が務め、性教育の必要性や具体的な指導方法について意見を交わしました。

セイシルからは、これまでに寄せられた相談内容や、私たちが実施してきた性教育授業の経験をもとに、男子への効果的な教育の在り方について提案しました。特に、「自分の体を大切にすること」を軸に、「適切なマスターベーションの学び」の重要性についても紹介し、多くの共感をいただきました。



連絡先：株式会社TEGAヘルスケア セイシル

〒104-0053 東京都中央区晴海1-8-12 晴海トリトンスクエア Z棟 11階

Email: edu@tegahealthcare.co.jp

【セイシル】(10代向け性教育WEBサイト) <https://seicil.com/>

【withセイシル】(性教育従事者向け性教育お役立ちサイト) <https://with.seicil.com>

【おとなセイシル】(大人向け性知識メディア) <https://otona-seicil.com>

AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

内容：今年はウインドチャイムの風鈴づくりを行いました。来場者の方には台紙に絵を描いたり、シールを貼りデコレーションをして頂いたあと、天蚕糸でウインドチャイムを付けて頂きました。

涼し気な音を聞きつつ作業しながら来場された方と日常の話や性教育について語り合うことができ、展示場ならではの良い時間を共有できました。

感想：＊作業しながらだとお互いにじっと顔を見て話さないのがかえってよかった。自然に会話ができた。
＊あたたかな雰囲気ではシールを選んだり、紐を選んだり、そこに集まった方々とたわいない語らいをして作品をほめ合う、認め合う、とてもすてきな時間を過ごせました。心地よかったです。



連絡先：AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

07 閉会式～広がるAIDSフォーラム～

AIDS文化フォーラムを支えてくれた人たち：AIDS文化フォーラムin横浜・AIDS文化フォーラムin京都・AIDS文化フォーラムin佐賀・AIDS文化フォーラムin NAGOYA・AIDS文化フォーラムin陸前高田・山田雅子（司会）

閉会式では各地のフォーラムの開催状況の報告と告知、横浜へのメッセージが伝えられました。会場にいらしていたAIDS文化フォーラムin京都・高田雅弘さんと大野聖子さんから10月に開催を控えた京都の告知があり、名古屋のジミーハットリさんからも12月の開催を目指し計画中であることが伝えられました。残念ながら一足先に会場を後にした佐賀の古川潤哉さんからは「AIDS文化フォーラムin佐賀、今年は6月に開催しました。アーカイブをYouTubeにて公開しますのでご覧ください。2026年は6月3日（土）の開催を目指しています。皆さまぜひ九州・佐賀に遊びに来てください！」というメッセージをいただきました。最後に陸前高田の佐々木亮平さんからは「大災害の経験から、本音を語り合うこと、本音に耳を傾けることの重要性」が強調され、第32回の歴史への敬意と今後の活動への期待、そして2026年1月31日（土）に陸前高田で『はまかだ交流会』が開催予定であることが告知され、各地のフォーラムへのエールが交わされました。

ボランティアとして参加した学生さんの言葉をご紹介します。

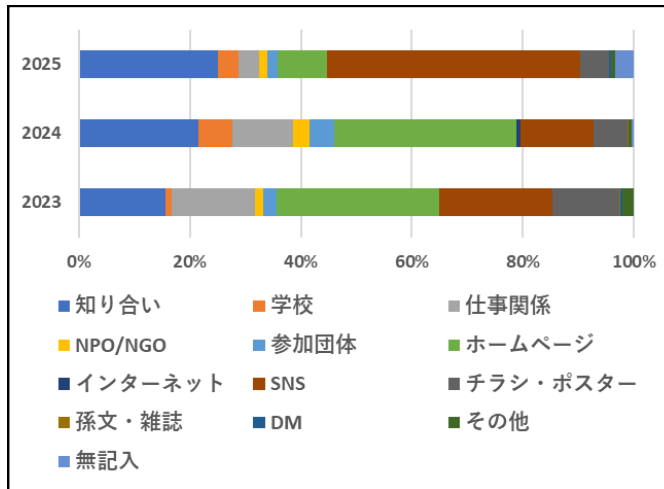
＊参加してよかった。明確に結論が出ずとも各々が正しい知識を得て、そのことについて おのこの意見の擦り合わせながら模索し考えていくことの重要性を実感しました。＊AIDSは単なる「病気」ではなく、差別や偏見、孤独といった、さまざまな社会的問題とも深く関わっていることを実感しました。そうした現実を知ること、自分の視野が広がり、今後、どのように人と向き合い、理解し、支えあっていくべきかを考えるきっかけになりました。

最後にはボランティアの小塚さん作成のスライドショーの上映を見て、熱かった3日間を振り返り、互いに感謝と労いを伝え、これからの活動に向けた決意と心地よい疲労感をおみやげに第32回AIDS文化フォーラムin横浜を終えました。

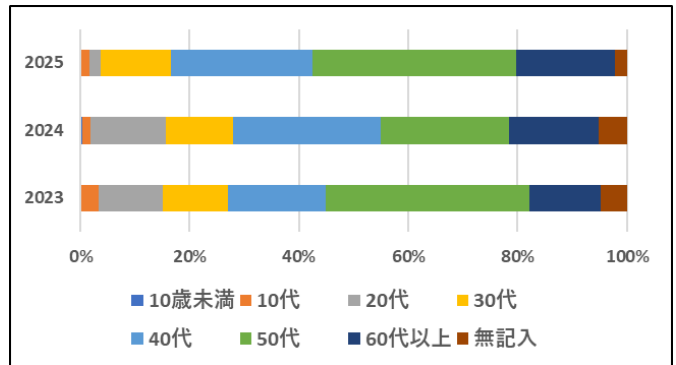


08 フォーラム全体集計

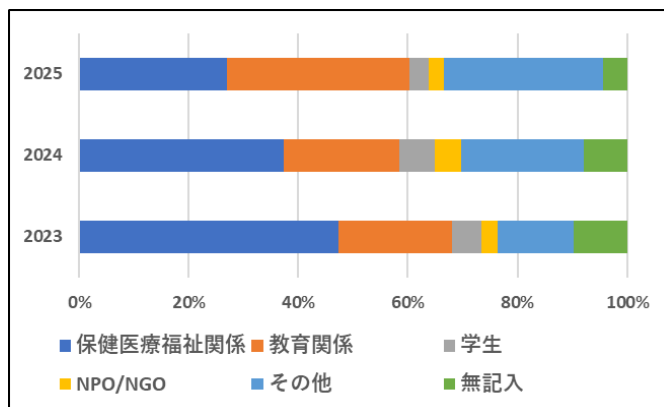
1. フォーラムを知ったきっかけ



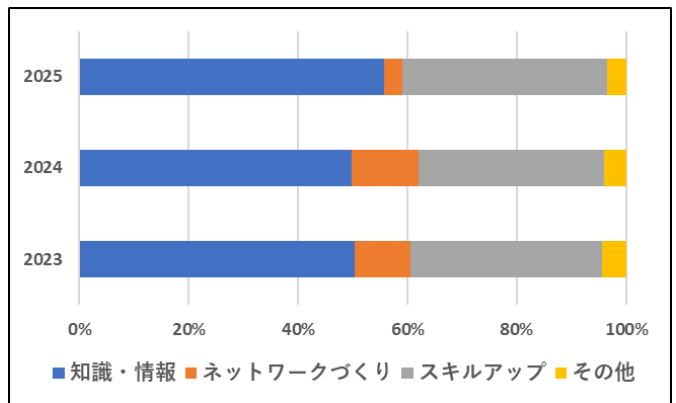
2. 年齢



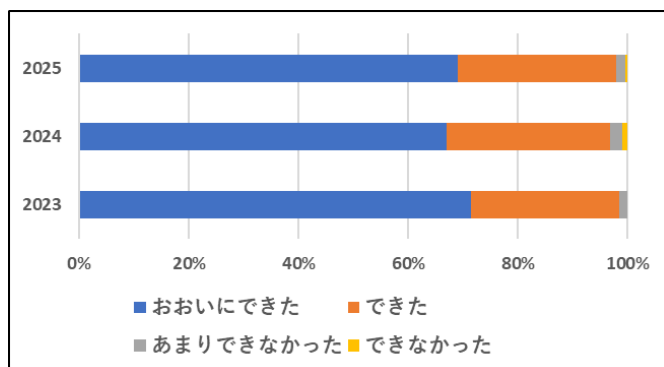
3. 職業等



4. 来場目的



5. 来場目的達成度



6. 2025年アンケート回答者の居住地（都道府県別）

地域	参加人数
北海道・東北	4
関東	168
中部	22
近畿	1
中国・四国	0
九州・沖縄	1
その他	8

09 AIDS文化フォーラムin横浜 32年の歩みー開催概要と経緯ー ①

(社会・話題)		(テーマ・内容)
市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	1994(1回)	「市民と海外NGOによるAIDS会議」 社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得た。 開催日数は9日間・会場は第3回まで神奈川県国際交流協会
母親が語る薬害エイズ・薬害報道の増加	1995(2回)	「ともに生きる」 HIV当事者が主催する講座や、若者向けの包括的性教育も多く開催され、医療・教育分野の専門職が増加。全国から参加者が集まるようになる。
薬害エイズ裁判 和解成立	1996(3回)	「ともに生きるから連帯へ」 会場を「かながわ県民センター」に移して開催 以降、8月上旬の金・土・日開催として定着する
映画・秋桜 カクテル療法	1997(4回)	「未来へのつどい」 HIV陽性者の方々の積極的な協力がありました。会場をかながわ県民センターに移し開催。
HIV感染者の身体障 害者認定	1998(5回)	「エンパワーメント～自立と協働に向けて」 治療薬が増え、HIV感染症は慢性疾患になったといわれ始めた。
ビル解禁・感染症 予防法施行	1999(6回)	「いまを生きる」 参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図った。
女性用コンドーム 薬物乱用	2000(7回)	「いま一人ひとりができること」 「女性」をテーマにしたプログラムが多く組まれた。
ハンセン病に学ぶ	2001(8回)	「いま一人ひとりができること」 「障がい」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となった。
FIFAワールドカッ プ日韓大会	2002(9回)	「つながるつながる」 自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気づけられた。
七生養護学校事件 北半球でSARS感染 拡大と終息	2003(10回)	「AIDSこれまでの10年、これからの10年」 先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化した。
バンコクで国際エ イズ会議開催	2004(11回)	「いのち～市民が続けるAIDSへの取り組み」 飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーと会場参加型の企画が盛り上がった。
アジア太平洋地区 エイズ・神戸会議 開催	2005(12回)	「つながる空間」 若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引き付ける企画により多くの来場者を迎えられた。
第20回日本エイズ 学会会長にNPO代表 池上千寿子さん	2006(13回)	「つながる空間～Living Together～」 ネットワークを広げ連帯を深める中で、宗教や立場・活動・体験は違っても豊かに共に生きることを確認できた。
かながわレインボ ーセンターSHIP開 所	2007(14回)	「つながる」 患者と医療者との関係性（パートナーシップ）には信頼関係の構築することの重要性を訴えた。
第4回アフリカ開発 会議横浜開催 リーマンショック	2008(15回)	「つながる～いま、私にできること～」 教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催された。
新型インフルエンザ	2009(16回)	「他人ごと?!」 正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人ごと（ひとごと）と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、誰もが自分自身の課題と考える第一歩も踏み出した年となった。
猛暑・1ドル80円台	2010(17回)	「他人ごと??」 ピアエデュケーションに目覚め、性教育を進めてきた遠見才希子さんが医学生最後の年に閉会式の司会を務めた。
東日本大震災・福 島原発事故	2011(18回)	「エイズの何を知っていますか?～変わる常識～」 オープニングで陸前高田の方々が被災地の状況を報告。

09 AIDS文化フォーラムin横浜 32年の歩みー開催概要と経緯ー ②

(社会・話題)	(テーマ・内容)
第26回日本エイズ学会横浜開催	2012(19回) 「AIDS??文化??～仲間 新発見!～」 10月にはAIDS文化フォーラムin京都が開催。HIV/AIDSを文化の視点で考えることの大切さを実感した。
全国3か所に広がるフォーラム	2013(20回) 「これまでの20年 これからの20年」 AIDS文化フォーラムin陸前高田が開催。20年を区切りに新たな広がりを見せた。
全国4か所に広がるフォーラム	2014(21回) 「未来につなぐ新たな船出」 AIDS文化フォーラムin佐賀に広がる。
LGBTの権利拡大 渋谷区条例	2015(22回) 「今こそ、ともに生きる」 事務局が1階になり展示・交流スペースでの交流が活発になった。
津久井やまゆり園 事件	2016(23回) 「つながる ひろがる わかちあう」 熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと。」に学び、誰もが一人一人の生き方、支え合い方を考えるフォーラムになった。
AIDS文化フォーラム in名古屋開催	2017(24回) 「リアルとであう」 バーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ「リアルとであう」大切さを再確認。広報にSNS等を取り入れたことにより入場者が一気に増えた。
AIDS文化フォーラム 記念切手作成	2018(25回) 「#リアルとつながる」 リアルがキーワード
YouTubeライブ配信 に挑戦	2019(26回) 「<話す>と<リアル>に!!」 「HIV感染、同性婚、薬物使用、AV」について一人ひとりがリアルに「話す」ことでこそ理解が進むことを実感した。
新型コロナウイルス 感染拡大・オリ パラ 延期	2020(27回) 「リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう」 新型コロナウイルスの感染拡大によりオンラインセミナー、動画による活動紹介等全企画をオンライン配信。全都道府県、海外からもアクセスがあった。
新型コロナデルタ株 流行・東京オリパラ 無観客開催	2021(28回) 「ともに生きる つながりの参加者になる」 ハイブリッド開催を目指していたが、デルタ株の流行により全てオンラインの開催
エムボックス流行	2022(29回) 「文化～くりかえされるもの うまれるもの～」 かながわ県民センターの会場とオンラインでのハイブリッド開催により、映画上映等の企画が復活した。
梅毒流行・性教育	2023(30回) 「未来をみつめて」 対面講座が復活し、参加者との交流が復活。1階展示場は、ハコ物館作家コケ丸さんの「極私的梅毒展」や、もたいひでのりさんによる第30回のメッセージボードには参加者からの多くのメッセージをいただいた。
梅毒流行	2024(31回) 「伝えるむずかしさ」 HIV/AIDSのことを知らない人も増えているなか「AIDS文化フォーラム」という名前でフォーラムを開催することの意義を伝えていくことの難しさに直面しつつも、これまで大切にしてきたこと、これからも大切にしていきたいことを伝えることができる場、さまざまな立場の人が語り合う場、「文化」の灯を守っていきたい。
酷暑・熱中症に注意	2025(32回) みんなの 本音が 聴ける 語れる (テーマを作らず開催) 参加団体33組・プログラム数30個・参加人数2,150人



11回：飯島愛さんを迎えて



23回：熊谷晋一郎先生を迎えて



30回：特製！
エコバックとうちわ

10 第32回AIDS文化フォーラムin横浜を支えた人たち

■ 主催 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

◇ 公益財団法人横浜YMCA 佐竹博（組織委員長） ◇ 社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋秀之
◇ カトリック横浜教区 鈴木真 ◇ ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 兵藤芳朗

■ 共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会に列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

◇ 神奈川県健康医療局保健医療部健康危機・感染症対策課

■ 助成金 公益財団法人エイズ予防財団

令和7年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、横浜、京都、陸前高田、佐賀、名古屋での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発に助成していただきました。

■ 後援

◇ 横浜市医療局健康安全課 ◇ 川崎市 ◇ 相模原市 ◇ 横須賀市 ◇ 藤沢市 ◇ 茅ヶ崎市
◇ 横浜商工会議所 ◇ 神奈川県教育委員会 ◇ 公益財団法人エイズ予防財団 ◇ 神奈川新聞社
◇ tvk

■ 企画運営 AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

フォーラムを運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト共催の担当者、フォーラム大好きでずっと関りを持っている人など16人、いろいろな立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通して活動しています。

■ 当日ボランティア

会場受付・会場設営・撤収・広報など延べ62人

■ 事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。

30年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当：横浜YMCA 国際・地域事業

編集後記

フォーラムでは、今まで多くの出会いをいただきました。人との出会いもそうですが、自分自身との新しい出会いもあります。来年も皆さんとお会いできることを楽しみにしています！（H・M）

参加団体の報告書や来場者のアンケートをじっくり読む機会をいただき作成を進められたことに感謝いたします。一つひとつの感想、大切にします。ありがとうございました！（M・K）



11 AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会規約

1. 名称
この会は「AIDS文化フォーラムin横浜 組織委員会」と称する。（以下、「組織委員会」と略す）
2. 趣旨
1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラムin横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。
3. 目的
 - 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
 - 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
 - 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
 - 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
 - 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
 - 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
 - 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
 - 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に促える。
 - 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける（エンパワメント）集いとする。
4. 構成
組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表で組織する。
5. 委員長
委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。
6. 組織委員会の開催
組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。
7. 組織委員会の役割
「AIDS文化フォーラムin横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。
8. 運営委員会の設置
組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員はHIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。
9. 事務局の設置と役割
組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。
常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。
事務局の役割は次の通りとする。
 - 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
 - 2) 予算を管理する。
 - 3) 年度を超えての継続的な開催を補佐する。
10. 財政
フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催（運営委員会への委嘱）の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。
11. 年度及び任期
組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。
組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。
12. その他
この規定に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の義を経て定めるものとする。

（付則）この規約は、2008年4月7日からの施行とする。

12 協賛・寄付

ご協力に感謝申し上げます

ヴィーブヘルスケア株式会社
〒107-0052
東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR
TEL:03-4231-5150
URL:<https://viivhealthcare.com/ja-jp/>

ジェクス株式会社
〒540-0012
大阪府大阪市中央区谷町2-3-12
マルイト谷町ビル11階
TEL:06-6942-9002 URL:<https://www.jex-sh.jp/>

一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区
〒160-0003
東京都新宿区四谷本塩町2-11 日本YMCA同盟会館2階
TEL:03-5367-6652
URL:<https://ys-east.or.jp/#gsc.tab=0>



13 参加団体等名称・索引

◇名称順

アジアの女性と子どもネットワークP22
相賀佳代子P9
阿部友理P9
有馬祐子P9
池畑博美P8
一般社団法人日本心理療法協会P20
岩室紳也P7, 8, 10, 13, 15, 16, 20
内田洋介P13
風間暁P10
KazuyaP7
カトリック中央協議会HIV/AIDS部門P22
神奈川県歯科医師会P17
神奈川県ユニセフ協会P23
北宗羽介P16
北山翔子P7, 9, 12
きらっといっぽの会P9
公益財団法人横浜YMCAP6
厚労科研費HIV母子感染予防班P24
コケ丸P23
後藤正善P7
斉藤章佳P8
彩の国思春期研究会P12
ジェクス株式会社P24
白野倫徳P14
性の健康イニシアチブP17, 25
平良愛香P15
高橋幸子P8
塚本堅一P10
特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンターP15

特定非営利活動法人パープル・ハンズP11
特定非営利活動法人SHIPP19
鳥居咲希P21
ナナさんP15
ナルコティクスアノニマス南関東エリアP21, 25
日本HIV情報センター (JHIC)P26
日本ハビタット協会P26
ピースP10
福正大輔P18
福田眞央P13
福元和彦P13
古川潤哉P13, 15
星野貴泰P10
ぼんつくP18
松本俊彦P10
水谷修P20
宮崎豊久P7, 8, 12, 15, 16, 18, 20
モリタイシP11
山口修平P7
山田雅子P11, 14, 19, 21, 29
横浜AIDS市民活動センターP27
横浜YMCA国際・地域事業P8
早稲田大学性的同意ハンドブックチームP19
◇アルファベット団体名
AIDS文化フォーラムin横浜
.....P6, 7, 8, 10, 11, 13, 14, 15, 16, 18, 20, 21, 29
Happiness Creation AcademyP18
NADA JAPANP27
STAND StillP16, 28
TENGAヘルスケアP13, 28

2025(第32回) AIDS文化フォーラムin横浜

報告書

発行日: 2025年11月

発行者: AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会

編集: AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会

イラスト協力: もたいひでのり

連絡先: AIDS文化フォーラムin横浜事務局

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA内 TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

Email:abf@yokohamaymca.org URL:<https://abf-yokohama.org/>



Instagram



X(旧Twitter)



Facebook

みんなの本音が聴ける 語れる

第33回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

期間 2026 8/7(金)→9(日)

会場 かながわ県民センター (横浜駅西口 徒歩5分)

参加自由
入場無料

あなたもフォーラムに
参加しませんか!!



★ 発表・展示主催者

講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表形式は自由。例年多くの団体が、教育・若者・国際・HIVと共に生きる・医療など、多様な切り口で発表しています。詳しくはホームページをご覧ください。

(募集開始4月頃)

★ 来場者・視聴者

気になる講座を聞いたり、展示を見たり、人と出会ったり、つながったり、フォーラムに来て一緒に楽しんで考えましょう！様々な事情で会場に来られない方も、一部プログラムをオンライン配信しますので気楽に参加してください。

★ ボランティア

小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。ボランティア活動を通じて、新しい出会いや日常に役立つ知識が得られます。

詳細はホームページをご覧ください！ <https://abf-yokohama.org/>

 Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

